

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	国語総合A	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	精選 国語総合 現代文編 改訂版 (筑摩書房)				
副教材	「上級入試漢字」(桐原書店) 「ちくま評論入門 改訂版」(筑摩書房) 「日本文学史必携」(第一学習社) 「新国語便覧」(大修館書店)						

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
------	--

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	評論とは何か	・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 評論 一 バラは暗闇でも赤いか?	○			◎	○	第1回
	5月	小説を読もう	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 小説 一 羅生門	○			◎	○	
		比べ読みをしよう	・目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりしている。 今昔物語集巻二十九第十八	○	◎			○	
	6月	論理的思考力を養おう	・文章の内容を必要に応じて要約している。 評論 二 ことばとは何か (わたし)のいる場所	○			◎	○	
		論理的な文章を書いてみよう	・話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べている。 表現編 2 ことばから文章へ	○	◎			○	
	7月	詩に親しむ	・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 詩歌 二十億光年の孤独 小景異情	○			◎	○	
	詩について語ろう	・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 表現編 1 ことばを発する	○	◎			○		
2 学 期	8月	登場人物の心情に迫る	・幅広く本や文章を読み、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 小説 二 棒 待ち伏せ	○			◎	○	第2回
	9月	作者について語ろう	・課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合っている。 表現編 3 調べてまとめる	○	◎			○	
		筆者の考えに迫る	・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 随想 小母さん 結ばれていく時間	○			◎	○	
	10月	筆者の論旨に迫る	・文章の内容を必要に応じて要約や詳述をしたりしている。 評論 三 魔術化する科学技術	○			◎	○	
		日本文学の伝統に親しもう	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 詩歌 短歌 俳句	○			◎	○	
	11月	歌論・俳論を書こう	・相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。 表現編 2 ことばから文章へ	○		◎		○	
		日本社会に学ぶ	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりしている。 評論 四 エクソフォニー	○			◎	○	
	12月	世界の中の日本	・文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えている。 評論 四 感性の考古学	○			◎	○	
	レポートしよう	・論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめている。 表現編 3 調べてまとめる	○		◎		○		
3 学 期	1月	文学的な表現に迫る	・文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりしている。 小説 三 夢十夜	○			◎	○	第4回
	2月	文学表現の世界	・対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の工夫を考えて書いている。 表現編 6 文学表現の世界	○		◎		○	
		多角的に物事をみつめよう	・幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 評論 六 マルジャナーナの知恵	○			◎	○	
	3月	小論文を書こう	・優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 表現編 3 調べてまとめる	○		◎		○	

学習の方法	授業では、知識・理解を深めるだけでなく、「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」能力を総合的に身に付けていくために、個々の自主的な発表の機会を多くとります。教材によってはグループ学習を実施し、発表することもあります。また、評論教材では要約を実施し、自分でまとめる力を身に付けていきます。さらに、評論については、サブテキストを活用し、高度な読解力を養っていきます。年4回の定期考査や漢字小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物(読書感想文、課題、ノート、学習プリント等)、小テスト(漢字テスト等)の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力、話す・聞く能力、語彙力、理解力などを総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	国語総合B	学年	第1学年	類型	共通
単位数	3単位	教科書	精選 国語総合 古典編 改訂版 (筑摩書房)				
副教材	「新明説総合古典文法」(尚文出版) 「必携新明説漢文」(尚文出版) 「新国語便覧」(第一学習社)						

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
------	--

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学期	4月 古文に親しむ	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	古文入門 宇治拾遺物語 児のそら寝 絵仏師良秀	○			○	◎	第1回
	5月 漢文に親しむ	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	漢文入門 訓読のきまり 故事成語 借虎威 嬰逆鱗 朝三暮四	○			○	◎	
	6月 随筆を読もう1	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。	徒然草 丹波に出雲といふ所あり 名を聞くより 花は盛りに	○			◎	○	
	6月 物語を読もう1	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	物語 竹取物語 かぐや姫誕生 伊勢物語 茶川 東下り 筒井筒	○			◎	○	
	7月 古典とは何か	話したり聞いたり話し合ったりすることの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	古典の森	○	◎			○	
2 学期	8月 漢詩を読もう	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	春暁 江雪 涼州詩	○			◎	○	第2回
	9月 史伝を読もう	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしている。	十八史略	○			◎	○	
	10月 日記を読もう	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。	土佐日記 門出 帰京	○			◎	○	
	10月 物語を読もう2	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	平家物語 木曾の最期	○			◎	○	
	11月 古典文学を評論する	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。	転換期の文学	○		◎		○	
	12月 漢文を読もう	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	雑説 売油翁	○			◎	○	
	12月 俳諧に親しむ	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えている。	奥の細道 序 白河の関 平泉	○			◎	○	
3 学期	1月 中国思想に学ぶ	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	論語 孟子	○			○	◎	第4回
	2月 随筆を読もう2	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	玉勝間 風俗文選	○			◎	○	
	3月 和歌に親しむ	優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	○		◎		○	

学習の方法	授業では、教材を深く読み込み、内容を的確に理解していきます。教材によっては、調べ学習や発表、スピーチを行います。また、グループ学習を行い、周りの人と話し合う機会を多く設けます。家庭での予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、どこが重要な点かをはっきりつかみましよう。年4回の定期考査や小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物(課題、ノート、学習プリント等)、小テストの成績などを総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	公民	科目	現代社会	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	改訂版高等学校現代社会（数研出版）				
副教材	フォーラム現代社会2018（とうほう）						

学習目標	広い視野に立って、現代社会と人間について理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断できるようになる。人間としてのあり方や生き方について考える能力を養い、良識ある社会人として必要な能力と態度を身につける。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第1編 現代の社会と人間 第1章 私たちの生きる社会	◎		○			第1回
	5月	第2章 青年期の自己形成		◎		○		
	6月	第3編 現代の経済 第1章 現代の経済社会と経済活動のあり方			○	◎		
	7月			◎	○			
2 学 期	8月	第2章 日本経済の進展と私たちの生活		○		◎		第2回
	9月				○	◎		
	10月				○	◎		
	11月	第2編 現代の政治と法 第1章 個人の尊重と法の支配	○	◎				第3回
12月	第2章 現代の民主政治と政治参加の意義		○	◎				
3 学 期	1月	第3章 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	○	◎				第4回
	2月	第3編 現代の経済 第3章 国際経済の動向と日本の果たすべき役割		◎	○			
	3月	第4編 ともに生きる社会をめざして	◎	○				

学習の方法	教科書、図説、プリント等を活用して、現代社会の状況や問題点等を学習していきます。予習は当然のことですが、特に復習に力を入れましょう。（例：教科書を読む→問題集を解く→もう一度教科書を読み、解けなかった内容を理解する）用語や出来事を暗記するだけでなく、それらのつながりにも関心を持ちましょう。また、毎日、ニュースを見たり新聞を読んだりして、時事問題に関心を持ちましょう。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。 ・授業態度やノート、ワークシート、資料プリントの活用状況を点検し評価します。 ・長期休業中のレポートなどのように、資料を収集・活用する技能や、考察することから得られる結論等を表現する能力を評価します。また、資料を基に、思考・判断する能力を小テストや定期考査の問題等で評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	学年	第1学年	類型	共通
単位数	3・2・1単位	教科書	「改訂版 数学Ⅰ」「改訂版 数学A」「改訂版 数学Ⅱ」(数研出版)				
副教材	問題集「改訂版 サクシード数学Ⅰ完成ノート, 数学A完成ノート, 数学Ⅱ完成ノート」(数研出版) 参考書「フォーカスゴールド 数学Ⅰ+A, 数学Ⅱ+B」(啓林館)						

学習目標	数学Ⅰと数学Aの学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識する。 (3学期は数学Ⅱを学習する。)
------	---

		学習計画及び内容		評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	数学Ⅰ 第1章 数と式	・数を拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解する。一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	◎			○		第1回
	5月	数学Ⅰ 第2章 2次関数	・2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。			○	◎		
	6月 7月	数学A 第1章 場合の数と確率	・図表示や具体的な事象の考察から、場合の数及び確率について理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにする。	◎			○		
2 学 期	8月 9月	数学A 第3章 図形の性質	・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、事象の考察に活用できるようにする。		○	◎			第2回
	10月	数学Ⅰ 第3章 図形と計量	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	◎			○		
	11月	数学A 第2章 整数の性質	・整数の性質についての理解を深め、事象の考察に活用できるようにする。		◎	○			第3回
	12月	数学Ⅰ 第4章 データの分析	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	◎				
3 学 期	1月	数学Ⅱ 第1章 いろいろな式	・等式や不等式の証明についての理解を深め、論理的な思考力を養い、命題などの考察に生かすことができるようにする。				◎	○	第4回
	2月		・数の範囲を複素数に拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○		◎			
	3月	数学Ⅱ 第2章 図形と方程式	・さまざまな平面図形の諸性質や関係を、方程式や不等式を用いて数学的に処理することを学ぶ。		○		◎		

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での教科書の予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、復習します。 ・授業では、教科書と並行して、問題集(サクシード)の「重要例題」「問題B」「発展」を解きます。どうしても解けないときは、参考書(フォーカス)を調べる、友人と研究し合う、先生に聞くなどして、必ず自力で解けるようにします。 ・家庭学習を計画的に毎日実行する習慣を身に付け、根気強く学習することが大切です。
------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	改訂版 化学基礎（数研出版）				
副教材	ニューステージ新化学図表（浜島書店） セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）						

学習目標	1 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 進歩する現代の化学の素晴らしさや面白さを化学の学習を通して理解する。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査		
			①	②	③	④	⑤			
1 学 期	4月	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合	・物質は原子・分子・イオン等の微細な粒子からできていることを理解する。 ・成分としての元素の概念を理解する。 ・気体や液体、固体の性質を具体的に観察し、実験などを通して、結合の概念や物質の構造を理解する。	◎	○				第1回	
	5月				◎	○				
	6月						○	◎		
	7月									
2 学 期	8月	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応	・物質の構成粒子の質量の考え方「モル」を学び、化学反応式に基づく、反応の量的関係の計算に習熟する。 ・酸・塩基の性質や価数、また強弱と電離度の関係について理解する。また、中和滴定実験を通して、その量的関係を理解し、身近にある物質中に含まれ酸・塩基の濃度を計算する。		○	○	◎		第2回	
	9月									
	10月									
	11月									
3 学 期	12月	第3章 酸化還元反応	・酸化還元滴定実験を通して、その量的関係を理解し、身近にある物質中に含まれる酸化剤・還元剤の濃度を計算する。	○	○	◎	○		第3回	
	2月									
	3月									第4回

学習方法	<p>毎日の授業を大切にし、授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。化学式や化学反応式を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのか理由を考え、系統立てて学習していくことが大切です。</p> <p>科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。短時間で構いませんから予習を確実にし、自分が何をやるのか理解してから臨みましょう。</p>
------	--

評価の仕方	<p>定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物（実験ノートなど）を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。</p>
-------	---

評価の観点	<p>① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）</p>
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年	第1学年	類型	共通
単位数	3単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)				
副教材	図説 現代高等保健 304 (大修館書店)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の合理的な実践を通して、運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに自身の体の調子を整え、体力の向上を図る力を養う。 ・公正・協力・責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営む資質や能力を育てる。
------	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	体づくり運動	◎	◎	◎	○		
	5月	球技選択Ⅰ	◎	◎	◎	○		
	6月	柔道・ダンス (選択)	◎	◎	◎	○		
	7月	体育理論 体づくり運動・ダンス	◎	○	○	◎		
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス	◎	◎	◎	○		
	9月	球技選択Ⅰ	◎	◎	◎	○		
	10月	柔道・ダンス (選択)	◎	◎	◎	○		
	11月	体育理論	◎	○	○	◎		
3 学 期	1月	体づくり運動・持久走	◎	◎	◎	○		
	2月	球技選択Ⅱ	◎	◎	◎	○		
	3月	柔道・ダンス (選択) 体育理論	◎	◎	◎	○		

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 ・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。
-------	---

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲、運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 運動の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	保健体育	科目	保健	学年	第1学年	類型	共通
単位数	1単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)				
副教材	図説 現代高等保健 304 (大修館書店)						

学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	交通事故の現状と要因	◎	○	○	◎	第1回考査	
	5月	交通社会における運転者の資質と責任	◎	○	○	◎		
	6月	安全な交通社会づくり 応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法(実習)	◎	○	○	◎		
	7月	日常的な応急手当	◎	○	○	◎		
2 学 期	8月	私たちの健康のすがた	◎	○	○	◎	第3回考査	
	9月	健康のとらえ方	◎	○	○	◎		
	10月	健康と意志決定・行動選択	◎	○	○	◎		
	11月	健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防	◎	○	○	◎		
	12月	食事と健康 運動と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康	◎	○	○	◎		
3 学 期	1月	現代の感染症 感染症の予防	◎	○	○	◎	第4回考査	
	2月	性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制 心身の相関とストレス	◎	○	○	◎		
	3月	ストレスへの対処	◎	○	○	◎		
	3月	心の健康と自己実現	◎	○	○	◎		

学習の方法	教科書と副教材を中心に授業を行います。授業の中でそれぞれの内容に即して設定した学習課題を自らの手で調べてその発表を行い、さらに理解を深めていきます。 また、学習した内容を単に暗記に留めるに終わらせず、日常生活の中での実践力につなげて、自らが課題解決できる力を養っていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、課題学習の発表の内容や提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。保健に関する知識理解及び興味関心の程度、日常生活における健康・安全に対する思考力や実践力などを総合的に判断します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 運動の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)				
副教材							

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	1 校歌を歌おう	・松山東高校校歌					単元ごとに課題を評価します。
	5月	2 声の世界	・イタリア歌曲 (カポ ミオ ベン, オ・ソレ・ミオ) ・ドイツの歌 (野ばら) ・見上げてごらん夜の星を ・夢みたものは……					
	6月							
	7月		・ボディアンサンプル ・音楽理論					
2 学 期	8月	3 日本の音楽	・レポート発表					単元ごとに課題を評価します。
	9月		・《さくら》変奏曲 ・虹の彼方に					
	10月	4 楽器の世界	・京鹿子娘道成寺 ・ウクレレによる伴奏練習					
	11月	5 西洋音楽史と鑑賞	・荒野の果てに ・Oh Happy Day					
3 学 期	1月	6 合唱	・あなたに ・空より高く ・上げば尊し					単元ごとに課題を評価します。
	2月	7 演奏会	・講座内演奏会の準備、練習と発表					
	3月							

学習方法	<p>様々な様式、形態の曲を歌ったり、演奏する中で、音楽感の幅を広げ、表現する力を育てましょう。また、音楽理論等音楽の仕組みや歴史について学んだり、我が国の伝統的な楽器に触れることで日本音楽の楽しみを知ってもらいたいと思います。</p> <p>なお、夏期休業中には鑑賞に関するレポートを宿題としています。自主的に様々な音楽を鑑賞しておきましょう。</p>
------	---

評価の仕方	<p>定期考査は実施しません。演奏点と平常の取組（提出物・忘れ物・授業態度・意欲等）、夏期休業中の課題の内容を総合的に評価します。</p> <p>各学期末、年3回の評価です。</p>
-------	---

評価の観点	<p>① 関心・意欲・態度 ② 芸術的な感受や表現の工夫 ③ 創造的な表現の技能 ④ 鑑賞の能力 ⑤ なし（評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）</p>
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	新編 書道 I (教育出版)				
副教材							

学習目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
------	---

		学習計画及び内容		評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	1 書の世界へようこそ 2 漢字の書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材・姿勢・執筆 ・さまざまな楷書 ・厳正と温雅 ・重厚と軽快 ・方勢と円勢 ・小字の書 ・篆刻について ・文字の配列 	◎			○		単元ごとに課題作品を評価します。
	5月			(1) 楷書の学習	○			◎	
	6月	(2) 篆刻の学習		○		◎	○		
	7月			◎			○		
2 学 期	8月	(3) 行書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・運刀 ・補刀と押印 ・さまざまな行書 ・行書の特徴 ・蘭亭序の鑑賞と臨書 ・争坐位稿の鑑賞と臨書 ・風信帖の鑑賞と臨書 ・条幅の揮毫 ・意図に応じた表現 ・用具・用材の工夫 	○		◎			単元ごとに課題作品を評価します。
9月	○				○	◎			
10月	◎			○					
11月	○				◎	○			
12月	◎				◎	○			
3 学 期	1月	4 仮名の書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさ・全体構成の工夫 ・感動や思いの表現 ・漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞 ・仮名の成立と発達 ・平仮名・変体仮名 ・連綿 ・高野切第3種の鑑賞と臨書 ・全体構成の工夫 	○◎					単元ごとに課題作品を評価します。
2月	○				◎				
3月	◎			○					
	○				◎	○			

学習の方法	最初は臨書活動が中心になりますが、表現活動を高めるためには欠かせない学習です。目的を認識して授業に取り組んでください。また制作に必要な道具や材料は事前に指示しますので忘れ物の無いように準備しましょう。創作活動を豊かに展開するために、自然の美を感じる生活を送ってください。そしてその美しさを作品に表現できる喜びや楽しさを学びましょう。書は心を表す芸術です。
-------	---

評価の仕方	定期考査は実施いたしません。作品点と平常の取り組み（提出物・忘れ物・授業態度・意欲等）を総合的に評価いたします。 各学期末、年3回の評価です。
-------	--

評価の観点	① 書への関心・意欲・態度 ② 書表現の構想と工夫 ③ 創造的な書表現の技能 ④ 鑑賞の能力 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	芸術	科目	美術 I	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	2 単位	教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)				
副教材							

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
------	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点				定期考査
			①	②	③	④	
1 学 期	4月	オリエンテーション 身近な者を描く (絵画)	○				単元ごとに 作品を評価 します。
	5月	色彩の基礎、配色の魅力 (デザイン)	○	○	◎	○	
	6月	ポスターで伝える (デザイン、鑑賞)	○			◎	
	7月	アニメーションの技法 (映像メディア表現)	○	◎	○		
2 学 期	8月	夏休み課題		◎	◎	○	単元ごとに 作品を評価 します。
	9月						
	10月	人物を描く (絵画、鑑賞)	○	○	◎	◎	
	11月						
	12月	暮らしの中の「使う」デザイン (鑑賞)	○			◎	
3 学 期	1月						単元ごとに 作品を評価 します。
	2月	ペーパーウエイト (デザイン、彫刻)	○	◎	◎		
	3月	イラストレーションの魅力 (デザイン)	○	◎	◎	○	

学習の方法	美術 I の授業は実技中心です。楽しく活動しつつも、めりはりをつけて制作に集中しましょう。制作の技術だけでなく、言葉や文字での表現活動も大切にしてください。日頃から、自分が「何を好ましいと感じるのか」、そして「それはなぜなのか」考えるようにしましょう。自分を知ることが深い表現活動に繋がります。
-------	---

評価の仕方	ペーパーテストは実施していません。作品点と平常の取組（提出物、授業態度など）を総合的に評価します。また、技術的な巧みだけに評価が偏らないよう、個々の成長の過程や度合いを大切にしています。各学期末、年 3 回の評価です。1 つの課題の配点が大きいので未完成にならないように注意しましょう。
-------	---

評価の観点	① 美術への関心・意欲・態度 ② 発想や構想の能力 ③ 創造的な技能 ④ 鑑賞の能力 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語 I	学年	第1学年	類型	共通
単位数	3単位	教科書	Crown English Communication I New Edition (三省堂)				
副教材	総合英語be 3rd Edition (いいずな書店)						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた状況に応じて、間違えを恐れずに英語で伝えることができる。 英語音声の特徴を理解しながら、大きな声で音読することができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。 英文の内容をKey Wordsを用いて再構築したり、自分の言葉を使って要約したりすることができる。
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 本文に関する説明やキーワードなどを聞いて、概要を理解することができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文を聞くことができる。 	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 未知語を推測し、文脈から内容を推測することができる。 与えられた英文に関する質問に対して、根拠を採り出し、適切に答えることができる。

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学期	4月 L.1	<ul style="list-style-type: none"> ピクトグラムの果たしている機能を知ることで、言語のはたらきについて考える。 ピクトグラムと言語の共通点、違いについて自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○	第1回	
	5月 L.2	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙飛行士・若田光一氏の話を通して、地球人としての生き方を考える。 興味をひかれた宇宙実験について書き発表する。 宇宙開発の意義について、自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○		
	6月 L.3	<ul style="list-style-type: none"> 人と自然との関わり方について考える。 伝統文化の継承の大切さに気づく。 伝統文化の継承の意義について、自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○	第2回	
7月 L.4	<ul style="list-style-type: none"> ピアニスト辻井伸行氏の業績を通して、ひとつのことを継続してやることの大切さを知る。 「音楽の力」とはどんなものか、自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○			
2 学期	8月 L.5	<ul style="list-style-type: none"> フードバンク活動を知り、貧困やボランティア活動について考える。 日本や世界における貧困について認識する。 福祉の国の役割について、自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○	第3回	
	9月 L.6	<ul style="list-style-type: none"> 動物学者・環境保護活動家のジェーン・グドール博士のインタビューを通して、動植物との共生を考える。 自分にできる環境保護活動について考える。 絶滅危惧種保護の必要性について、自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○		
	10月 L.7	<ul style="list-style-type: none"> 建築家・坂茂氏の活動を通して、社会貢献の意義やあり方について考える。 自分の将来の職業について、その仕事を通して、どんな社会貢献ができるか考える。 	○	◎	◎	○		
3 学期	11月 L.8	<ul style="list-style-type: none"> 20世紀を象徴する写真を見て、歴史からなにを学び、その教訓をどう生かせるかを考える。 写真の持つ力について、自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○	第4回	
	12月 L.9	<ul style="list-style-type: none"> アンドロイド研究の第一人者・石黒浩氏の研究を通して、その意義と、人間とロボットの関係について考える。 人間とロボットの(将来的な)関係について予測させ、それに対する自分の意見を述べる。 	○	◎	◎	○		
	1月 L.10	<ul style="list-style-type: none"> 漫画ビーナッツを通して、本当の強さとはなにかを考えるとともに、人を思いやることの大切さを知る。 自分にとっての「人生の成功」はなにかを考えさせる。 	○	◎	◎	○		

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、下を向かず堂々と英語で話す。 本文の内容に関する英問に英語で答える。 キーワードを使って本文の要約を相手に口頭で伝える。
------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	英語表現I	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	Perspective English Expression I NEW EDITION (第一学習社)				
副教材	総合英語be 3rd Edition (いっぴな書店)						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた状況に応じて、間違いを恐れずに英語で伝えることができる。 英語音声の特徴を理解しながら、大きな声で音読することができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。 英文の内容をKey Wordsを用いて再構築したり、自分の言葉を使って要約したりすることができる。
	聞くこと	X		

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査	
			①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	L. 1	・S+V, S+V+C, S+V+Oの文型を用いて「言いかける」「念を押す」文を作ることができる。	○	○	○	○	第1回	
		L. 2	・S+V+O+O, S+V+O+Cの文型を用いて「話題を変える」「話題を発展させる」文を作ることができる。	○	○	○	○		
	5月	L. 3	・現在時制, 過去時制を用いて「感謝する」「苦情を言う」文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 4	・進行形を用いて「称賛する」「謝る」文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 5	・未来の表現を用いて「計画を伝える」「約束する」表現を用いて文を作ることができる。	○	○	○	○		
	6月	L. 6	・現在完了形を用いて「喜ぶ」「望む」文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 7	・過去完了形を用いて「心配する」「同情する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
	7月	L. 8	・受動態を用いて「驚く」文を作ることができる。	○	○	○	○		第2回
		L. 9	・助動詞を用いて「助言する」「依頼する」表現を用いて文を作ることができる。	○	○	○	○		
2 学 期	8月	L. 10	・不定詞の名詞用法・動名詞を用いて「提案する」「勧誘する」文を作ることができる。	○	○	○	○	第2回	
		L. 11	・不定詞の形容詞用法を用いて「許可を求める」「質問する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
	9月	L. 12	・不定詞の副詞用法を用いて「許可する」「断る」表現を用いて文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 13	・分詞を用いて「命令する」「禁止する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 14	・名詞節を用いて「主張する」「意見を述べる」表現を用いて文を作ることができる。	○	○	○	○		
	10月	L. 15	・副詞節を用いて「注意を喚起する」文を作ることができる。	○	○	○	○	第3回	
		L. 16	・関係詞の制限用法を用いて「申し出る」文を作ることができる。	○	○	○	○		
	11月	L. 17	・関係詞の非制限用法, 関係代名詞のwhatを用いて「推測する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 18	・仮定法を用いて「仮定する」「願望する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
L. 19		・前置詞を用いて「賛成する」「反対する」文を作ることができる。	○	○	○	○			
12月	L. 20	・形容詞・副詞を用いて「説明する」「描写する」文を作ることができる。	○	○	○	○			
	L. 21	・比較表現を用いて「報告する」「発表する」文を作ることができる。	○	○	○	○			
	L. 22	・強調表現を用いて「要約する」文を作ることができる。	○	○	○	○			
	L. 23	・否定表現を用いて「訂正する」文を作ることができる。	○	○	○	○			
	L. 24	・名詞構文を用いて「理由を述べる」文を作ることができる。	○	○	○	○			
3 学 期	1月	Review	・学習した文型・文法事項を復習・確認し, 練習により定着度を高める。	○	○	○	○	第4回	
		L. 20	・形容詞・副詞を用いて「説明する」「描写する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
	2月	L. 21	・比較表現を用いて「報告する」「発表する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
		L. 22	・強調表現を用いて「要約する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
	3月	L. 23	・否定表現を用いて「訂正する」文を作ることができる。	○	○	○	○		
L. 24		・名詞構文を用いて「理由を述べる」文を作ることができる。	○	○	○	○			

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、下を向かず堂々と英語で話す。 本文の内容に関する英問に英語で答える。 キーワードを使って本文の要約を相手に口頭で伝える。
------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	Discussion & Debate I	学年	第1学年	類型	共通
単位数	1単位	教科書	Impact Issues 2 (PEARSON Longman)				
副教材	総合英語be 3rd Edition (いいずな書店)						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた状況に応じて、間違いを恐れずに英語で伝えることができる。 英語音声の特徴を理解しながら、大きな声で音読することができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。 英文の内容をKey Wordsを用いて再構築したり、自分の言葉を使って要約したりすることができる。 	
	聞くこと	X		読むこと	X

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1学期	4月 5月 First IMPRESSIONS	・自己紹介をする。	◎	◎		○		第1回
	6月 7月 What's for Dinner?	・好きな食べ物について英語で話し合う。	◎	◎		○		
2学期	8月 9月 Too little, Too Late	・環境問題について英語で話し合う。	◎	◎		○		第2回
	10月 11月 Why Go to School?	・将来の夢を考える。	◎	◎		○		第3回
	12月 Cyber Bullying	・いじめ解消の解決策を考える。	◎	◎		○		
3学期	1月 2月 Who Needs the Local language?	・自分の興味のある時事問題について英語で意見を述べる。	◎	◎		○		第4回
	3月 Traffic Jam	・新しい交通機関について述べる。	◎	◎		○		

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、下を向かず堂々と英語で話す。 与えられたテーマで、即興のスキットを行う。 与えられたテーマで、ディスカッションやディベートを行う。
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	家庭基礎 明日の生活を築く (開隆堂)				
副教材	家庭科ノート、調理実習ノート基礎編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編) 2018最新 生活ハンドブック 家庭 資料&成分表 (第一学習社)						

学習目標	<p>家族や生活の営みを人の一生とかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とします。</p>
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	導入、オリエンテーション	◎			○		第1回
	5月	第1部 第1章 青年期の自立と 家族・家庭	○	◎		○		
	6月	第3章 高齢期の生活	○	○	○	◎		
	7月	第4章 共生社会における地域や家族	○	○		◎		
2 学 期	8月	第1章 食べる						第3回
	9月		○	○	◎	○		
	10月							
	11月	第4章 消費者市民として生きる	○	◎		○		
12月		◎	○		○			
3 学 期	1月	第3章 住まう	○	○	◎	○		第4回
	2月	第1部 第2章 子どもの発達と保育	○	○	○	◎		
	3月	生涯の生活設計	○	◎		○		

学習の方法	<p>・ワークシート、実習ノート、資料集等を用いて授業を行います。実験・実習を活用し、実際の生活で実践できるように、生活との関わりを意識しながら進めていきます。講義や実習、グループ活動等に意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、生活の中での問題点を発見し、自分で解決できる能力を身につけていきましょう。</p>
-------	---

評価の仕方	<p>・ワークシート、実習ノート、ホームプロジェクト等長期休業中の課題、授業態度等の平常の評価を含め、実習及び定期考査の成績を多面的に評価します。 ・授業への取り組み状況(授業態度・実習態度・学習活動への参加状況など)、課題の内容・提出状況、定期考査などから総合的に評価します。</p>
-------	---

評価の観点	<p>① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)</p>
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	情報	科目	情報の科学	学年	第1学年	類型	共通
単位数	1単位	教科書	最新情報の科学 新訂版 (実教出版)				
副教材	最新情報の科学 新訂版 学習ノート (実教出版) 30時間でマスター Windows7対応 Office2010 (実教出版)						

学習目標	1 情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解する。 2 情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得する。 3 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	序章 情報社会と私たち	○			◎		
	5月	第1章 情報とコンピュータ						
	6月	1節 情報の表し方 2節 コンピュータでのデジタル表現						
	7月	3節 コンピュータの仕組み						
2 学 期	8月	第2章 ネットワークの仕組みと情報システム	○			◎		
	9月	1節 ネットワークの仕組み						
	10月	2節 情報システムと情報セキュリティ						
	11月	第3章 問題解決のためのコンピュータ活用						
	12月	1節 問題解決 2節 アルゴリズム 3節 モデル化とシミュレーション						
3 学 期	1月	第4章 ネットワークとデータベースの活用	○			◎		
	2月	1節 ネットワークの活用 2節 データベース						
	3月	第5章 情報技術と社会						
		1節 情報化による生活の変化 2節 情報技術による社会の発展						

学習の方法 授業では、コンピュータ実習を中心に進めていきます。表計算ソフトを使用した情報の収集・整理(グラフ化)・分析、プレゼンテーションソフトを使用した情報の統合・発信の方法について個人で学習のします。さらに、発表・評価をし、情報の活用法を完成させていきます。
年2回の定期考査で、著作権・セキュリティなど、2進法・16進法を使った情報のデジタル化など、教科書の全範囲の学習を進め、副教材とともに定着させていきます。

評価の仕方 実習の内容・態度等と定期考査の成績を総合的に評価します。

評価の観点 ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし
(評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)